

# 「事業名:福島発『復興知』の総合化による食と農の教育研究拠点の構築」 2020年度補助事業の実績・成果

**福島大学 連携市町村:川内村・南相馬市・飯舘村・大熊町**  
**現地拠点 :双葉郡川内村上川内早渡11-24 川内村役場内 ほか**

<http://fukkou-nougaku.com/report/>  
取り組みと成果

「知識・知見・技術等の横ぐしをさす」

「復興知」の展開可能な技術やノウハウ、地元への貢献情報・新知見の紹介  
キーワード大分類: 【1】生産環境、【2】イネ、【3】栽培技術、【4】農産物利用技術、【5】六次化の推進、【6】環境修復、【7】風評被害、【8】鳥獣被害、【9】ICT,IoT活用、【10】営農者拡大、

## 事業のポイント

震災から10年が迫る中、復興事業の見直しが進み、復興支援活動・研究の規模・多様性が急速に失われつつある。本事業は福島大学が“扇の要”となり、農業・農学分野で復興を推進する全国の大学等と連携し、「復興知」事業の活動と成果を共有する。知識・知見・技術等の大学や地域等での横断的な利活用をはかり、福島の学生だけでなく、被災者・復興の実務者・全国の大学生等に還元するため、食と農、ひいては福島の復興に資する持続的な人材育成のための教育研究拠点の構築を目指す。

## 成果のポイント

### 今年度の活動

#### 1. 復興農学の教育研究拠点の構築

- ①「復興知」事業大学等と「事務局会議」等を設置し、本学が事務局を担当して、「復興農学会」の設立と学会誌の編集の実務を進めた。
- ②各大学等が展開する「復興知」事業の知識・知見・技術等に「横ぐしをさす」ため、体系化理念と展開活動を実施した。
- ③浜通り地域の若い世代に農業・農学の復興状況の理解を深め、本学を含む「復興知」事業大学等の成果の展開をはかる。

#### 2. 復興支援研究

- ①浜通り地域産米の品質・食味の特性を地域間差に着目して解析する。
- ②米粒のセシウム吸収リスクを評価する。

### 今年度の具体的な成果

#### 1. 復興農学の教育研究拠点の構築

- ①「復興農学会準備会」および「同事務局会議」で本学が事務局を主導し、「復興農学会」が発足し、「復興農学会誌」第1号を発行した。
- ②本学の「復興知」事業の体系化理念と展開活動が、関係省庁等を含めて広く理解された。関連大学の教職員・学生、自治体に、「知識・知見・技術等の横ぐしをさす」取り組みをHPやワークショップで展開を開始した。
- ③「現地ツアー」・「出前講義・講演」により、農業・農学の復興状況を、本学・「復興知」事業大学等のほか児童・生徒等が深く理解し、将来の浜地域のイノベーションを支える有能な人材を育てる「種まき」ができた。

#### 2. 復興支援研究

- ①浜通り地域産米の品質・食味は、水田の表層除染で肥沃度が低下しても、炊飯米の電子顕微鏡観察で、良食味米の特性を維持していた。
- ②対象とした水稻粳でセシウムは不検出で、リスクがないことを確認した。

### 1. 復興農学の教育研究拠点の構築

#### ○「復興農学会」とその関係

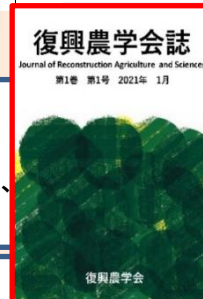
- (1)復興農学会事務局会議、
- (2)復興農学会 設立記念シンポジウム・総会、
- (3)研究例会、(4)復興農学会誌発刊

#### ○復興農学研究会

- (1)福島フォーラム (2)現地ツアー
- (3)出前講義(模擬授業)・講演

#### ○学部専門教育・大学院教育への反映

- (1)「実践型教育プログラム」との連携
- (2)「国際教育研究拠点」事業等の推進における他大学等との連携



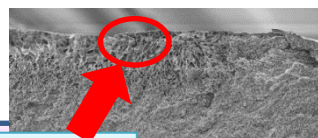
## 【教育研究】



### 2. 復興支援研究

#### ○重点研究(例)

- (1)浜通り地域産米の品質・食味特性
- (2)米のセシウムリスク評価



浜通り産米の炊飯米は、表面は緻密な蓄積層が薄く、内部は糊化が進まない部分がある。「適度な歯ごたえ」の良食味米の特徴。

炊飯米の電子顕微鏡写真

